

1- e 中部タイムでスキルアップ

3月、町の全小中学校に一人一台のタブレットPCが導入されました。本校では、朝活動として「e中部タイム」を実施しています。「e中部タイム」は、タブレットPCの使用上のルールをはじめ、カメラの使い方、QRコードの読み取り、課題の提出など授業で活用するための基本的なスキルを身に付ける時間です。子どもたちの技能の習得はとても早く、その成果が授業でも表れ、タブレットPCを使った効果的な学習へとつながっています。子どもたちからは、「こんなことができるんだ!」と新たな発見への驚きの声や、「やってみたい!」という意欲的な声が聞かれます。



タブレットでワークシートを提出する子どもたち

歩道橋に立ちて見つむる金峰の藍深まりて間に溶けゆく
梅雨に入りてすぐに激しき雨降りぬスイートコーンは斜めに倒れて
照り返す日射しの強さに来る夏の厳しき思いぬ草を取りつつ
親しみし白木蓮の太木が切られし跡に葉の伸ぶ
降りだした雨に駆け込む喫茶店BGMは雨だれの音
ランドセル少し重いタンポポの花咲く道をみんなと帰る

短歌会

阿蘇神社に聖火リレーを待つ薄暑
一村に婚の噂や夏めきて
朝日背に草刈り鎌に踏む構へ
父の日や通院用にとポロシャツを
母の日や花束届き仏前へ
初メロン微熱の喉を潤せり
青梅を拭きあげ酢みそ一年分
田に畑に影動き出す早苗月

山藤の下安らぎの杖を置く
麦の秋素直に農継ぐたなごころ
中空の音色となれり釣忍
籠の中ぬくもり残る実梅かな
青梅の落ちて転びて熟しけり
故郷の一村写る水鏡
紫陽花や雨に任せて色放つ
出勤前ひと仕事掻く代田かな

菊陽句会報

きくよう文芸

松本 東亜
馬場 礼子
中村トシエ
佐藤せい子
梅田 國雄
有久 賢治

佐藤 澄世
田中 郁子
北川しんじ
高橋 孝子
寺尾千代子
原野レイ子
財津 早雪
木村 信子

人権啓発標語 「その言葉 本当に使って だいじょうぶ?」

菊陽中部小学校 4年 宋喰野 颯夏(現在5年生)

「話してよかった」



勇気を出して自分のことを話しました

私は保育園の時、名前をからかわれていました。いやなあだ名をつけられて、とてもくやしかったです。言い出した人につられて他の人たちも私に向かって言ってきて、悲しくて、だれかに相談したかったけど、自分から言えませんでした。自分の名前をいやだと思ったこともありましたが、先生には伝えただけ、またそれが続いて、家に帰ってから一人でずっと泣いていました。励ましてくれる友達もいたけど、なかなか立ち直れませんでした。ずっと、心の底からあやまってもらいたいと思っていました。

水俣病についての学習の時に、先生が自分のつらかったことを話してくれました。先生の話聞いて、私ももらい泣きしそうなくらいでした。先生の方がもっとつらかったと思いました。だから私は、差別や偏見をしたくない、絶対にしないと心に決めました。そして、学年人権集会で、自分のつらかったことを話すことにしました。発表している時、つらかったこ

武蔵ヶ丘小学校 5年 田中 沙英(現在6年生)
とを思い出して、泣いてしまいました。その時、となりにいた同じクラスの子たちが、ティッシュをくれたり、「一緒に読もう。」と、声をかけたりしてくれました。私はそれがとてもうれしかったです。本当にうれしかったです。一人じゃずっと固まっていたと思うし、さみしかったと思います。そう考えると、本当にありがたいと思いました。その後も、席にもどると、「がんばったね。」「だいじょうぶだった?」と、優しい声かけをしてくれました。「一緒に、途中までしか言えなくてごめんね。」と、言ってくれた人もいました。私は、五年二組はすごいなあと思いました。

(先生より)

つらかった気持ちに寄り添い、共に行動してくれる友達がたくさんいること、本当にありがたいですね。これからも、差別や偏見を許さず、おかしいことはおかしいと言いつけ合えるなかまになっていきましょうね。

「人権のまち菊陽フェスタ」

入場無料

部落問題や障がい者問題、在日外国人問題など、他の差別問題の解消にも通用する差別認識や解消に向けた「取り組み」を学ぶことができます。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

- 日時 令和3(2021)年9月4日(土) 午前10時~11時50分(開場 午前9時30分)
- 場所 図書館ホール
- 主催 町
- 後援 町人権教育推進協議会・町PTA連絡協議会 町同和問題を考える企業連絡会
- 日程 (1)午前10時~10時15分 ステージショー 出演: コッコロ隊 「コッコロ隊」はフェイスシールドを着用して会場の皆さんと一緒に人権のことを考えます。

- (2)午前10時20分~11時50分 講演会

演題: 「差別意識のカラクリ」
講師: 奥田 均さん
昭和27(1952)年生まれ。近畿大学人権問題研究所教授などを経て近畿大学名誉教授(社会学)。全国各地で差別の構造などの講演を開催、多数の書籍の執筆活動を行う。



著書の「差別のカラクリ」には、「社会問題を考える出発点は現実。現実には差別がある。目標は『差別の解消』、人間がつくった社会問題は人間の営みで解決できる」とあります。「差別解消」の道すじを学び合しましょう。

